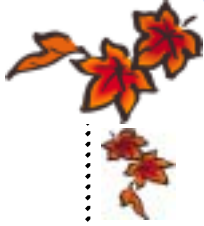


NEWSLETTER



紅葉が目に見え鮮やかな季節となりました。各学校では学校行事や研究授業など充実した教育活動を展開されていることと存じます。さて、前回に引き続き、4月からの研究の進捗状況について、中間報告をさせていただきます。

(研究課)



情報手段を主体的に活用して各教科の目標達成を図る学習の展開

長谷川 英司

第6学年国語科の単元『ガイドブックを作ろう』では、「読む人への効果を考えて書く」ことが、学習目標の大きな柱であり、目的や意図に応じた情報手段を主体的に活用させる学習活動の設定が必要です。このように、今年度からの教育課程では、各教科や領域の数多くの学習場面でコンピュータの活用が組み入れられています。



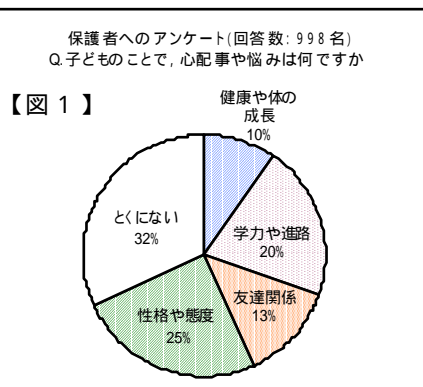
本研究では、昨年度に提示した「コンピュータの活用能力を育成するプログラム」をベースに、各教科の学習場面で子どもが主体的に情報手段を活用して教科の目標達成を図る学習プログラムの開発を進めました。

実証授業では、総合的な学習の時間の活動と連動して、目的に応じてデジタルカメラやインターネットを活用して収集した情報をもとに、折り方を工夫したパンフレットやスライドなど、読み手への効果に応じた表現手段を選択してガイドブックを作りました。

学校と家庭との連携・協力の充実をめざして

石原 峰子

学校には、保護者との信頼関係に基づき、家庭教育との連携を図りながら子ども理解の上に立って教育活動を展開していくことが求められています。そのためには、子どもの家庭での生活や思い、保護者の子育てに対する思いを知るとともに、両者の学校教育に対する思いや考えを受け止めなくてはなりません。本研究ではこうした思いを把握



するために、本市立小学校13校の協力をいただき、3年生と5年生及びその保護者約1,000組を対象としたアンケート調査を行いました。

その結果、たくさんのお子たちが家庭を心のよりどころとしていることや、教育やしつけを強く意識している保護者が多いことが分かりました。しかし、一方では、子育てに意義を感じながらも、子どもたちの成長の様子を心配したり悩んだりしている保護者の姿も見えてきました。

今後は、子どもの豊かな人間性を育むという視点から、子どもの内面を高めるための家庭教育のあり方と学校教育が家庭教育にどのようにかかわるべきなのかを考察し、報告したいと考えています。(図1参照)

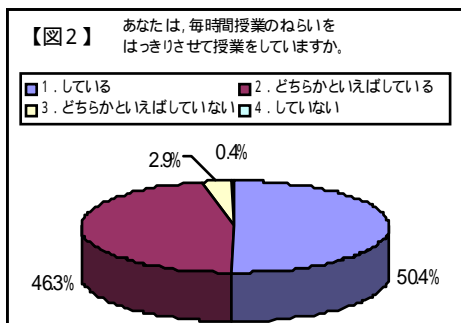
教員自らが力量を高めるための研修のあり方

田中 洋三

いつの時代も「教育は人なり」と言われるように学校教育の成否は教員に負うところが大きく、教員の資質・力量の向上を図ることが教員研修の重要な課題となっています。そのためには教員研修のあり方を改めて見直し、より効果あるものへと形態や内容を工夫していくことが求められています。

そこで、教員としての資質・力量を専門的な力量と人間的な

資質に、研修の場をフォーマルな場とインフォーマルな場にとそれぞれ二つの領域に分けてとらえ、研修の場と教員としての資質・力量の形成との関係を明らかにしようと考えました。



本研究では、自らの力量に対する自己評価や役立った研修の場、参加したい研修内容・形態などについて、本市小・中学校14校約250名の先生方にご協力をいただきアンケート調査を実施しました。その結果、研修に意欲的に参加している教員の研修効果は高いということが分かりました。

今後も、調査結果を詳しく分析して、教員としての資質・力量を高めるための教員研修のあり

方を報告したいと考えています。(図2参照)

子どもの学習意欲を育む多様な学習指導・学習活動の在り方
小嶋 忠行

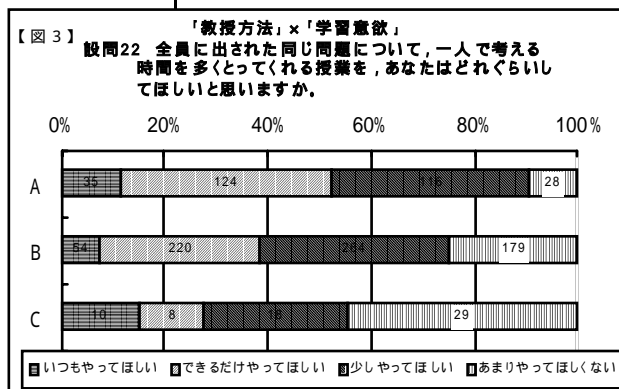
子どもたちの主体的な学習を支えるためには、何よりも子どもたち自身の学習意欲が持続されることが大切です。そのため本市では、これまでから多様な学習形態を導入、工夫して子どもたちが意欲的に取り組む授業へと改善を図ってきました。

本研究では、多様な学習形態をより効果あるものとするためには、子どものニーズに応じて選択・改善していくことが必要であると考え、本市小・中学校18校にご協力いただき、「学習意欲」と「学習形態」に関する調査を

行いました。

図3は、「学習意欲」(情意面)の回答結果を3つのグループに分け、「学習形態」(教授方法)の回答結果とクロス集計したグラフです。学習意欲の高い子ども(A)とそれ以外の子ども(B,C)では、個別学習の好みにかなりの違いがあることが分かりました。

今後、調査結果の分析と考察をさらに進め、子どもの学習意欲を育む多様な学習指導・学習活動の在り方や留意点についての資料を提供します。



情報資料室だより

全国の教育の動きがわかる最新の「研究紀要」1000冊!

情報資料室には全国の教育研究機関(文部科学省、全国の教育センター、大学、附属小・中学校等)や市内の学校、幼稚園から年間に1000冊を超える研究紀要が送られてきます。その中に集録されている研究論文や授業実践記録は今日的な教育課題に沿ったものが多く、これまでから校内研究の資料などに多方面で活用されています。情報資料室には、内容が一目でわかるよう紀要の目次をファイリングした年度ごとの「文献目録」を用意しています。目録で見つけた論文等が集録されている研究紀要は移動式書架に配架していますので、ご相談下さい。

なお研究課のホームページで検索できるようパソコンによる入力作業を進めていますので、目録で見つけられない場合はお尋ねください。

各学校の研究紀要を情報資料室に!

この秋も、数多くの学校で素晴らしい研究発表会が開催されています。すでに、多くの学校から研究成果をまとめた研究冊子や公開授業の学習指導案などを送っていただいております。情報資料室では研究資料として保管するとともに学習指導案集に加えることで、全市の共有財産として活用していただけるようにしております。研究発表会が終わり次第、研究紀要・指導案集を下記宛に2部ご提供くださいますようご協力をお願いします。

【メール3コース 永松記念教育センター情報資料室】

